

## 「2023年度国立台湾大学スプリングスクール派遣報告書」

京都大学法学部1年 羽廣 圭人

台湾への短期留学は自分にとって初めての海外渡航であり、日本との違いや共通する点を多く見ることができ刺激的だった。今回の台湾滞在において特に充実感があり思い出深いのは、土日を使った一泊二日の台南への観光だ。天気も良く異国情緒のある街を満喫することができ、一人旅行であったが非常に満足いく観光であった。台南に限らず授業内外での観光は、日本での観光では味わったことがないほど楽しむことができた。台湾はしばしば狭いと言われる日本よりもさらに小さく、外国の中では日本と比較的似ている印象があるが、寺廟や博物館など訪れると台湾独自の歴史・文化の重厚さを感じることもできた。そして台湾の中でもそれぞれの地域や歴史遺産ごとに歴史や背景がある他、例えば民主主義やリベラルな価値観の成長など様々な切り口から台湾を考えることも出来、興味深い点は尽きないことが分かった。自分は元々現代中国や中国史に興味があったため中国語をきちんと勉強したいというのが参加した主な理由だったが、台湾にも面白い点。一方、生活面では苦労もあった。周りに日本語で相談できる人がいないというのはやはり不安を感じるもので、店で思った通りの注文が出来ないといった不自由さもあった。また食事の違いは楽しみの1つである一方滞在中頻繁にお腹を壊すこととなった。交通面でも日本と異なり、バイクとの軽い衝突事故にあうなど外国には簡単には馴染めないものだなということも感じた。

プログラムでの中国語の授業は多く発言を求められる少人数制の授業であり、知っている中国語を実際に使ってみる良い機会となった。言いたいことを表現出来ないことも多くもっと話せるようになりたい、語彙力を高めたいと強く感じた。ただし、観光に時間を多く使ったことや日々の疲れにより、3週間という限られた期間の中、授業外で落ち着いて中国語の勉強をすることがあまり出来なかったことは少し残念だった。授業中に気になった文法事項、語彙があっても授業外で自主学習する時間をほとんど取れなかったことには悔しさを感じる。不満を述べたがプログラムの中国語の授業を通して中国語を話すことにいくらか慣れたこと、会話練習の感触を掴めたことは非常に良かった。また台湾大学の図書館や街中の本屋に行き、台湾に関する本や台湾人が書いた小説が多く並んでいるのを見て、当然のことではあるが日本語で読める台湾に関するものははるかに少ないだろうからやはり中国語を学び読めるようになりたいと思った。

プログラムを通して人との交流も良い経験となった。「留学に行くような人」や「国際交流に関心ある人」というと明るくて積極的な人柄の人達をイメージしていた。そして実際に今回の短期留学ではそうした人達に多く出会った。女子の参加者の方が多かったことも別学の中高出身の自分には新鮮に感じられた。明るく活発な人達のなか、馴染めないと感じたこともあったがそうした人達に出会えたことで自分も積極的な考え方が身についたと思う。今のところ進路に影響はないがまた海外へは行きたい。